

日本初！ 29er 級世界選手権大会で市橋／後藤組が女子 2 位 史上最多、27 カ国・地域から 242 チームが参加の大会で表彰台に

スペイン・エルバリスで 8 月 6 日まで開催されていた「29er 級世界選手権大会」（国際 29er 級協会・クラブノーティコエルバリス共催）で、日本から参加した市橋愛生（いちしまなせ・早稲田佐賀高等学校）／後藤凜子（ごとうりんこ・横浜市立南高等学校）組が総合 14 位、女子ペア部門で 2 位（ユース女子部門で 1 位）となりました。29er 級世界選手権大会で日本人選手がメダルを獲得するのは男女を通して初めてのこと。市橋／後藤組は 7 月にオランダで開催されたユースセーリング世界選手権大会でも同クラスで銅メダルを手にしており再び快挙達成です。



2 位の盾を手にする市橋(右)／後藤組 (Photo by Izuki Koizumi)

今回の「29er(トゥエンティナイナー)級世界選手権大会」は史上最多、世界 27 カ国・地域から 242 チームが参加し、日本からはユース女子ペアの市橋／後藤組 1 チームが出場しました。

29er 級は 2 人乗り高速ハイパフォーマンス艇で、29er セーラーの多くは五輪セーリング競技の花形種目である「49er (男子ペア) 級」や「49erFX (女子ペア) 級」へステップアップします。世界大会は 2000 年から毎年開催されており（2020 年はコロナのため中止）、男子ペア、女子ペア、男女ミックスペア、成人、ユースが分かれることなく同時にスタートするのも大会の特徴の一つです。

今大会はレガッタを通して 6~10 ノットの軽風~順風というコンディション。市橋/後藤組は当初、これまで経験したことのない参加艇数の多さでスタートに苦戦していましたが、ボートスピードで他艇にアドバンテージがあり、集団の中から徐々に順位を上げられたことで、総合 14 位、女子 2 位の好成績に結びついたようです。

29er 級世界選手権大会には、これまで日本からも複数チームが出場していますが、参加艇数が 100 艇を越える規模の大会で、過去に上位艇が集まるゴールドフリートに進出したことはありませんでした（直近の成績は 2019 年、男子ペアの 156 位/175 艇中）。日本チームにとってゴールドフリート進出だけでも大躍進ですが、市橋/後藤組は女子ペア 2 位、ユース女子ペア 1 位という見事な結果を残しました。



集団のトップを走る市橋/後藤組 (photo by Event Official)

【選手プロフィール】



スキッパー
市橋 愛生
いちはし まなせ
2005 年東京都生まれ
早稲田佐賀高等学校
11 歳からセーリングを始める



クルー
後藤 凜子
ごとう りんこ
2005 年神奈川県生まれ
横浜市立南高等学校
9 歳からセーリングを始める



トップマーク回航準備中の市橋（左）／後藤組（Photo by Event Official）

【選手コメント】

「今回の大会は 242 艇、1 フリート 40 艇。このように多い艇数でのレースは初めてでした。今までスタートは苦手意識があったため、とにかく空いている所からフリーで出ようと混戦を避けてきました。しかし今回の大会では、混戦の中でスタートをすることで、スタート時の自艇のコントロールの仕方や、走り出しのポイントなどを学ぶことができました。また、ゴールドフリートでのレースとなると、特に下マーク回航が 15 艇ぐらいの集団となるため、そこをどのようにしてうまく抜け出すかが重要となり、その回航のタクティクスなども学ぶことができました。沢山の艇数がいたからこそ、学ぶことが多い大会となり、自分のスキルアップにもつながる良い機会となりました」（スキッパー 市橋愛生）

「242 艇という歴史上最大規模の今大会で総合 14 位という結果に満足しています。大人も男女も問わないこの大会は 1 カ月前の 3 位で終えたユースワールドとはまったく違う環境でした。日本では経験できない規模に圧倒され、スタートに苦労することが多くありましたが、持ち前のスピードを活かし、順位を追い上げることができました。未だ 29er 級の普及が乏しい日本から前人未到のメダル獲得を達成できたことを嬉しく思います。同時に、この結果が日本でセーリング競技が盛り上がる契機になればなお嬉しいです」（クルー 後藤凜子）

【コーチコメント】

「まず選手の2人、おめでとうございます。最後まで諦めずに勝負した結果、逆転で2位を獲得することができたと思います。予選39位で滑り込みのゴールドフリートでしたが、そこからスマートなレース展開と持ち味のボートスピードを武器に順位を上げていくレース運びでポイントを重ねていくことができた結果、総合14位まで上げられました。

大会を通して軽風～順風域でスピードにアドバンテージがありましたが、練習で強風が吹いた際にもボートスピードは他国と比べて速かったので、市橋／後藤ペアのボートスピードは世界に通用することが証明できたと思います。

日本ではスキフ艇があまり盛んではありませんが、世界の主流は間違いなくスキフ艇に変わってきているので今回少しでも興味を持った方はぜひ29erやハイパフォーマンスボートを体験してみしてほしいと思います。

最後に厳しい状況の中、大会に派遣してくださった選手のご両親、関係者の皆様に感謝致します。ありがとうございました。選手たちの応援を引き続きよろしくお願い致します」
(帯同コーチ：小泉維吹)

【29er 級世界選手権大会 成績】

1位：Maximo Videla/Tadeo Funes De Rioja (アルゼンチン)

2位：Alex Demurtas/Giovanni Santi (イタリア)

3位：Revil Hugo/Devaux Karl (フランス)

6位 (女子1位)：Paula Laiseca/Isabel Laiseca (スペイン)

14位 (女子2位&ユース女子1位)：市橋愛生 (早稲田佐賀高等学校) / 後藤凜子 (横浜市立南高等学校)

17位 (女子3位)：Lucia Cullen/Alana Twomey (アイルランド)

※すべての成績表は大会公式サイトへ➡<https://29erworlds.org/>

※写真・動画のダウンロードはこちら➡[JSAF 広報委員会 DropBox](#)

または https://www.dropbox.com/sh/vtdw3palajwwu9z/AAC4yru9_ZggtnnvByBopVsAa?dl=0

【本件に関する報道関係者からのお問い合わせ先】

日本セーリング連盟広報委員会 Email: kohou@jsaf.or.jp
<https://www.jsaf.or.jp/> <http://jsaf-osc.jp/>